



PbOPSS-23

無作為オンラインパネル

無作為オンラインパネル『PbOPSS-23』のご登録者の皆様へ 2025 年第 3 回アンケートの速報のご紹介

2025年3月

拝啓 暖かい春の日差しを感じる頃となりましたが、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。ニュースでは、桜の開花予想が伝えられ、桜前線が列島を北上しております。

さて、無作為オンラインパネル PbOPSS-23にご登録されている皆様には、1月末から今月にかけて第3回 PbOPSS-23パネル調査「2024 年の日本の政治変動と経済生活についてのアンケート」にご協力いただきました。誠にありがとうございました。

昨年11月にお送りした定期通信第6号では、第2回調査の確定したデータを使用して、いくつかの調査項目についての分析結果をご紹介いたしました。この第7号では、第3回調査の速報として、ウェブによる回答のみを集計した結果をお伝えさせていただきます。このように今後も、4~5ヶ月に一度くらいの PbOPSS-23定期通信をお送りする予定ですので、お手元に届いた際にはぜひご覧いただければ幸いです。なお、Eメールでご連絡を差し上げている方の中には、この定期通信にお気づきでない方が少なくないことが分かりました。次号では登録されているすべての方に印刷物を郵送させていただきたく存じます。その上で、郵送を希望されない方にはあらためてEメールでのご連絡に切り替えさせていただきます。

本調査研究は2026年度末まで続く予定ですが、どうか引き続きご協力をお願いいたします。

敬具

皆様の個人情報につきましては、プライバシーマークを取得している専門調査会社のサーベイリサーチセンターのみが登録者名簿を厳重に管理し、わたくしども研究者は皆様のご住所、お名前、メールアドレスは所持しておりません。この通信も、わたくしども研究者が作成したあと調査会社に送付を委託してお届けします。ですので、住所やメールアドレスなどご連絡先の変更は、下記のサーベイリサーチセンターの受付窓口にご連絡下さい。

ご連絡先変更などの受付窓口

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局 <https://www.surece.co.jp/>
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番3号 PMO 水道橋ビル 6F 担当: 土屋・阿部・西浦・生島
フリーダイヤル 0120-366-354 (平日 9時~18時・土日祝祭日を除く)
メールアドレス ochakenkyu@surece.co.jp

研究プロジェクト

研究代表者: 杉野 勇(お茶の水女子大学)
研究分担者: 尾嶋 史章(同志社大学)、歸山 亜紀(群馬県立女子大学)、
小林 大祐(金沢大学)、轟 亮(金沢大学)、平沢 和司(北海道大学)

研究プロジェクトのウェブページでは、結果の報告など随時情報を更新しています。
URL:<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/PbOPSS23/>



調査結果 PbOPSS-23パネル第3回調査「2024年の日本の政治変動と経済生活についてのアンケート」は、2025年1月22日時点でPbOPSS-23パネルに登録中の999人の方に回答をお願いし、3月12日までに794人の方からご回答いただきました（ウェブ回答は709人、紙回答は85人でした）。この定期通信では、3月10日までにウェブでご回答いただいた707人のご回答を集計して、速報とさせていただきます。

〔はじめに〕

第3回調査のメインテーマは「政治変動」と「経済生活」でした。まず基本的項目の結果をご紹介します。

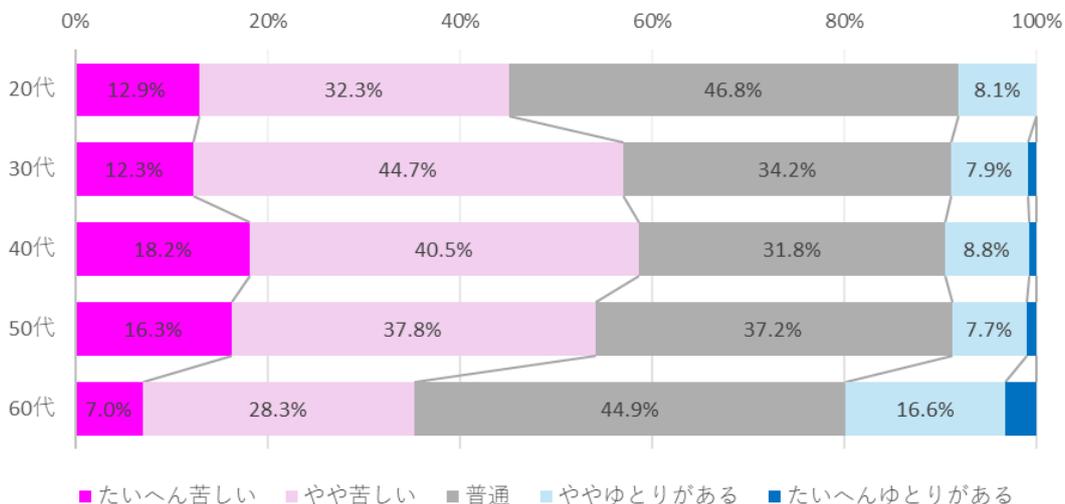
○衆議院選挙で投票をしたか

「あなたご自身は2024年10月27日の衆議院議員総選挙で投票をしましたか」（問7）と尋ねたところ、77.6%が投票したと回答されました。総務省のまとめによると今回の衆議院選挙の投票率（小選挙区）は約53.9%と、戦後3番目に低いものでした。PbOPSS-23パネルの皆さんの投票率は、これと比べると、たいへん高いと言えます。この選挙の結果、7年8カ月続いた第2次安倍政権以降、巨大与党に対し野党が分立する「1強多弱」状況が続いてきましたが、「少数与党内閣」による政権運営が行われることとなりました。与党だけで決められず、課題ごとに野党と合意をめざす「部分連合」の試みが国会でなされています。

○生活のゆとり／苦しさ（生活意識）

回答者のみなさんの経済生活について、「現在の暮らしを総合的にみて、どう感じていますか」（問17）と尋ねました。回答者全体では、「苦しい」（「たいへん苦しい」と「やや苦しい」）が49.8%、「ゆとりがある」（「ややゆとりがある」と「たいへんゆとりがある」）が11.7%となり、物価高の環境下で、生活の苦しさを感じている人が半数にのぼっています。年齢層別にみると図1のような違いがみられます。

図1 生活意識



60代以上では「ゆとりがある」との回答が2割ほどになっていますが、それ以外の年齢層では1割に届きません。60代以上に比べると、その他の年齢層は「苦しい」と答える比

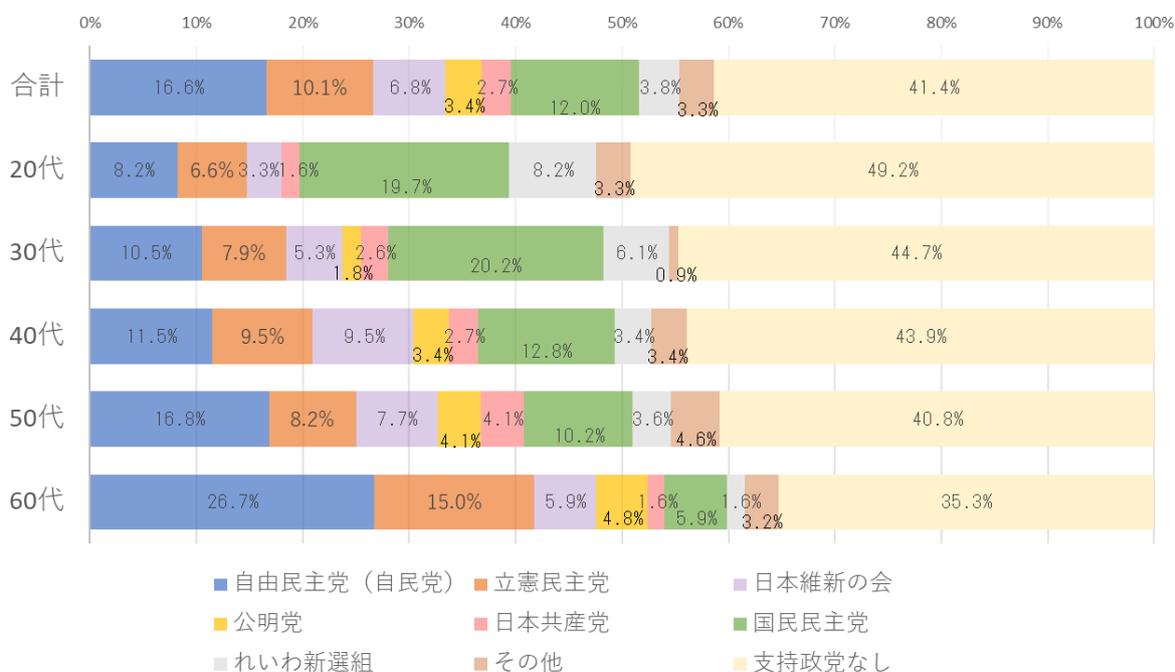
率がかかなり高くなっています。特に、40代では「たいへん苦しい」が18.2%、「やや苦しい」が40.5%で、合計すると約6割の方が「苦しい」と回答しています。30代と50代も、回答傾向は似ています。子育て世代が、生活のゆとりを感じられず、苦しい家計状況にあることがわかります。

他方で、60代以上でも、「ゆとりがある」との回答よりも、「苦しい」という回答が15ポイント以上も多く、二極化している状況だと言えます。

○政党支持

衆議院議員総選挙の投票率が高かったみなさんは、どの政党を支持しているのでしょうか。「あなたは現在、どの政党を支持していますか。支持する政党を選んでください。」(問 10)という質問でみなさんの支持政党について聞いた結果を、年代別に示したのが図 2 です。どの年齢層でも最も多いのは「支持政党なし」

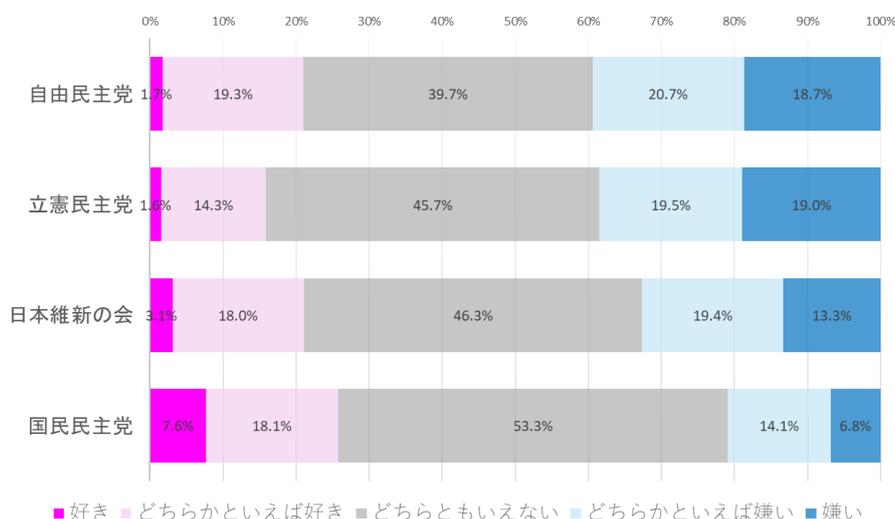
図2 年代別支持政党



で、若い年代になるほど多くなります。最も支持が多かったのは、自由民主党ですが、こちらは若い年代になるほど少なくなります。一方若い層の支持を集めているのは国民民主党です。特に 20 代、30 代では、自由民主党の倍以上という圧倒的支持を集め、合計でも野党第一党である立憲民主党より高い支持率となっています。「103 万円の壁」を引き上げると公約し、昨年の衆議院議員総選挙で議席を 4 倍に増やした国民民主党ですが、依然若年層を中心に支持は高く、「手取りを増やす」政策への期待は高いようです。

○政党好感度

図3 政党好感度



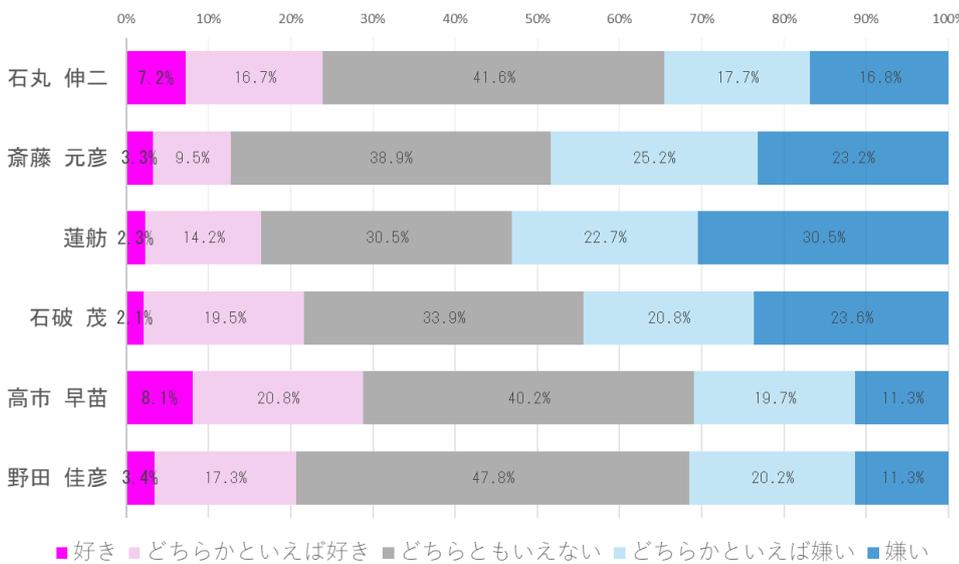
この傾向は、政党好感度でも確認できます。「支持政党とは別に、人には好きな政党もあれば、嫌いな政党もあると思います。次の政党について、あなたの気持ちは好き・嫌いなどの選択肢のどれにもっとも近いですか。」(問 12)という質問で、4つの政党について、好感度を5段階で聞いた結果が図3です。好きな割合(「好き」+「どちら

かといえ好き)で比較すると、国民民主党が 25.7%で最も高く、日本維新の会、自由民主党が続き、立憲民主党がこれらの政党のなかでは最も好感度が低いという傾向になっています。一方、嫌いな割合(「嫌い」+「どちらかといえば嫌い」)は、自由民主党と立憲民主党という議席数の上位2党で多くなっていて、この辺りもいわゆる第三極に位置する政党が支持を集める背景となっているのかもしれませんが。

○政治家好感度

好感度については、2024 年の政治の世界で話題になった政治家 6 人についても聞いています。「それでは、次の政治家については、あなたのお気持ちは好き・嫌いなどの選択肢のどれにもっとも近いですか。」という質問で好感度を聞いた結果を示したのが図 4 です。

図4 政治家好感度



好きな割合(「好き」+「どちらかといえば好き」)が最も高いのは高市早苗氏で、今年の自民党総裁選では敗れた石破茂首相を 7 ポイント以上引き離しています。ただ、同じ女性政治家でも蓮舫氏は嫌いな割合(「嫌い」+「どちらかといえば嫌い」)が最も高くなっています。図は省きますが、嫌いな割合は男性

でより多くなっています。同じ立憲民主党の野田佳彦氏を嫌いな割合は高市早苗氏とほぼ同水準で、政党や政策以外の部分が「気に入らない」という層が特に男性により多くいるように思えます。

また、昨年 7 月の東京都知事選で小池百合子氏に次ぐ票を獲得し一躍脚光を浴びた石丸伸二氏は、今回の 6 名のなかでは好きな割合が 2 番目に高くなっています。そして、やはり図は割愛しますが、若年層の特に男性からの好感度が高くなっています。ここには、彼の「攻撃的」とも言えるスタイルと、それが向けられる対象が比較的高齢であることが関係しているのかもしれませんが。昨年 11 月の兵庫県知事選で再選された斎藤元彦氏は、好きな割合が最も少なく、嫌いな割合も蓮舫氏に次いで多くなっています。再選後に選挙活動に関する様々な疑惑が浮上し大きく報じられていることが影響しているのでしょうか。

【最後の質問についての自由記述のご回答】

第3回調査では、最後の質問(問25)として、2024 年の出来事を振り返り、「こうした国内・国際情勢の中、あなたは、これからの日本あるいは世界はどのような社会を目指していくのが良いとお考えでしょうか。お考えがありましたら自由にお書きください」とおききました。この質問に、7割を超える方がお考えを回答されています(「特になし」などを除く)。手間を厭わずとても詳しくお考えを書いて下さった方も大勢いらっしゃいます。いずれも貴重なご意見であり、今後、紙の調査票によるご回答と合わせて確定データとし、分析させていただきます。ご回答をどうもありがとうございました。